



令和 4 年度 2 学期を始める

校長 丸山 久志

9 月 1 日 (木) に 2 学期の始業式を行いました。始業式では、子どもたちに次の二つを伝えました。

1 「わからないこと・まちがい・失敗」は大切な勉強の種

「わからないこと・まちがい・失敗」は恥ずかしくありません。

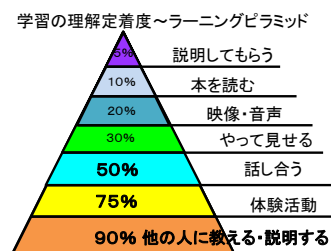
「わからないこと・まちがい・失敗」は勉強の種です。勉強の種をもとに、みんなで考え、お互いの考えを伝え合って、「あっ、なるほど」「わかった」という風に、この種を育てていくのが勉強です。



2 学習の理解定着度

右図のラーニングピラミッドをもとに、先生の話をお聴きだけの受け身の学習よりも、お互いの考えを伝え合う主体的な学習のほうが学習内容が身に付きやすいことを話しました。

他の人に教えたことが、一番記憶に残ります。



加治川の文化を子どもたちへ

子どもは一人ひとりに個性があり、持ち味がまったく異なります。学校では、人は一人ひとりが違ってよいこと、そして一人ひとりが大切な存在であることを、折に触れて、子どもたちに伝えていきます。その上で、子どもは決して一人で生きているわけではありませんから、社会的なルールはきちんとしつけていかなければならないと思っています。それには、私たち大人が子どもに良いモデルを見せることが必要です。大人同士がお互いに親切にしているか、そして、本当に思いやりをもって接しているか。日頃、子どもたちが目にする学校や家庭・地域での人間関係がモデルになると思います。

もし、私たち大人が汚い言葉を使っていたら、子どもたちも、そういう言葉を覚えてしまいます。そういう意味では、昨今はネット上に投稿される動画等で語られる言葉にも大いに注意が必要です。

私たちは、子どもにかける言葉を通して、私たちの内面や文化を伝えていきます。そして、言葉の奥にある目には見えない人の内面や文化を受け取るためには、想像力や思考力が必要です。私たちは、このことをしっかりと心に留めて、言葉を大切にしながら、子どもに私たちの内面と文化を伝えていきたいと思っています。

保護者の皆様、地域の皆様とともに、加治川の桜っ子を育てていきたいと思っています。2 学期もどうぞよろしくお願いいたします。